

298
9
118

大森太郎吉編輯

陸軍治罪法全

汲古堂

036339-000-6

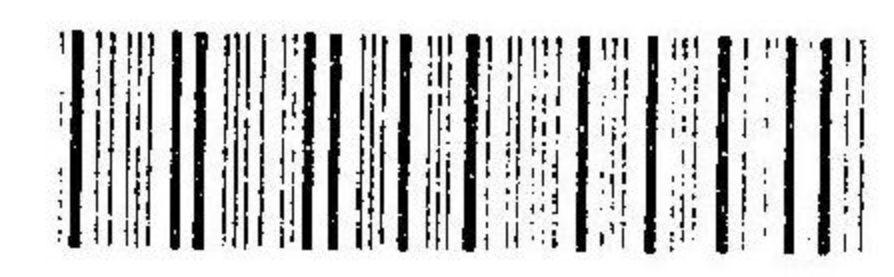
CZ-391-033

陸軍治罪法

大森 太郎吉 / 編

M16

BBQ-0041



第貳拾四號

陸軍治罪法別冊ノ通制定シ明治十六年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス
右奉 勅旨布告候事

明治十六年八月四日

太政大臣三條實美
陸軍卿大山 巖

陸軍治罪法目錄

- 第一章 總則
- 第二章 軍法會議ノ構成
- 第三章 軍法會議ノ權限
- 第四章 陸軍檢察
- 第五章 審問
- 六第章 判決

陸軍治罪法

第一章 總則

第一條 陸軍軍人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス
 軍法會議ハ刑事附帶ノ民事ヲ受理セス但官物ノ損害ニ係ルノ賠償
 ハ此限ニ在ラス

第二條 軍法會議ハ傍聽ヲ許サス但其宣告ヲ爲ス時ハ軍人ニ限り之
 ナ許ス

第三條 軍人ト稱スルハ陸軍刑法第三條第九條ニ掲クル者ヲ謂フ

第四條 司令官ト稱スルハ軍團長師團長旅團長軍管司令官營所司令
 官及ヒ合圍ノ地ノ司令官ヲ謂フ

第五條 普通治罪法第九條第十一條第十三條第十四條第十八條第百

條第一百一條ノ規則ハ此治罪法ニ於テモ之ヲ適用ス

第六條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ軍法會議ニ於テ審判ス可キ時ノ外軍人ノ例ニ依ルコトヲ得ス

第二章 軍法會議ノ構成

第七條 軍法會議ハ各軍管ニ一箇若クハ數箇ヲ設ク

軍中ニ於テハ軍團師團旅團ニ軍法會議ヲ設ケ合圍ノ地ニモ亦軍法會議ヲ設ク

第八條 軍法會議ニハ判士長判士理事理事補審事審事補錄事ヲ置ク

第九條 軍法會議ハ佐官一名ヲ判士長ト爲シ尉官三名理事理事補ノ内一名ヲ以テ判士トス但被告人准士官以上及ヒ同等以上ノ軍人ナル時ハ左ノ表ニ照シテ判士長判士ヲ更フ

判士長	判士	被告人
佐官 一名	尉官 三名	陸海軍少尉准士官及ヒ同等ノ軍人軍屬
佐官 一名	大尉 二名 中尉 二名 少尉 二名	陸海軍中尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
中佐 一名	大尉 一名 中尉 一名 少尉 一名	陸海軍大尉及ヒ同等ノ軍人軍屬
大佐 一名	大尉 一名 中尉 一名 少尉 一名	陸海軍少佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
少將 一名	大尉 一名 中尉 一名 少尉 一名	陸海軍中佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
中將 一名	大尉 一名 中尉 一名 少尉 一名	陸海軍大佐及ヒ同等ノ軍人軍屬
中將 一名	中將 一名 少將 一名	陸海軍少將及ヒ同等ノ軍人軍屬
大將 一名	中將 一名 少將 一名	陸海軍中將及ヒ同等ノ軍屬

大將 一名

中大將 一名

二名

陸海軍大將及ヒ同等ノ軍屬

四

第十條 將官ヲ以テ判士長判士ト爲ス時ハ陸軍卿ノ奏請ニ依リ上裁ヲ以テ之ヲ命ス

佐官ヲ以テ判士長判士ト爲ス時ハ陸軍卿之ヲ命ス尉官ヲ以テ判士ト爲ス時モ亦同シ

第十一條 軍團長及ヒ獨立師團長ハ部下ノ將校ニ其軍法會議ノ判士長判士ヲ命スルコトヲ得又理事審事缺員スル時ハ部下ノ將校ニ命シテ其職務ヲ行ハシメ錄事缺員スル時ハ下士ニ命シテ其職務ヲ行ハシムルコトヲ得

臨彈若クハ合圍ノ地ニ於テハ其司令官部下ノ將校若クハ其地ニ在

ル將校中ヨリ撰ミ專任判士ヲ置キ被告人ノ官等ニ拘ハラス之ヲ審判セシム但將校缺乏ノ場合ニ於テハ他ノ官吏ヲ以テ之ヲ補充スルコトヲ得

第十二條 軍管軍法會議ニ於テ判士長判士ニ充ツ可キ將校缺員スル時ハ軍管司令官ノ上申ニ依リ陸軍卿他ノ將校ヨリ之ヲ命シ若クハ被告人ヲ他ノ軍法會議ニ移シテ其審判ヲ爲サシム

第三章 軍法會議ノ權限

第十三條 軍法會議ハ其軍管若クハ師管ノ所管地方ヲ以テ管轄ト爲ス

第十四條 軍人管轄地外ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ其地ノ軍法會議ニ於テ審判スルコトヲ得

第十五條 軍人數箇ノ軍法會議ノ管轄地内ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ被告人ヲ逮捕シタル地ノ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第十六條 軍團師團旅團軍法會議ハ其團所屬軍人ノ犯シタル重罪輕罪ヲ審判ス

第十七條 俘虜降人ノ犯シタル重罪輕罪ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第十八條 軍人任官若クハ就役ノ前罪ヲ犯シ在官現役中發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其在官現役中罪ヲ犯シ免官若クハ免役ノ後發覺スル者ハ司法裁判ニ付ス

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者召集中罪ヲ犯シ若クハ舊罪發覺スル者ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス其召集中ノ犯罪解散ノ後發

覺スル者ハ司法裁判ニ付ス

第十九條 軍人二人以上共ニ重罪輕罪ヲ犯シ各其管轄ヲ異ニスル時ハ先キニ審問ニ著手シタル軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス海軍軍人軍屬ト共犯ニ係ル時モ亦同シ

第二十條 軍人ト軍人ニ非サル者ト共ニ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

第二十一條 陸軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ軍人ニ非スト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス餘罪俱ニ發シタル者モ亦同シ

第二十二條 軍法會議ハ重罪輕罪ト俱ニ發シタル違背罪モ亦之ヲ審判ス

第二十三條 軍中若クハ合圍ノ地ノ軍法會議ヲ廢スルニ當リ既ニ審

判ニ著手シタル者ハ陸軍卿ノ指定スル軍法會議若クハ其事件ヲ管理ス可キ官司ニ送致ス可シ

第四章 陸軍檢察

第二十四條 陸軍檢察ハ陸軍ニ關スル犯罪ヲ搜查シ證據ヲ拾收ス

第二十五條 左ニ記列スル諸官ハ司令官ノ命令ヲ受ケテ陸軍檢察ノ職務ヲ行フ

要塞副官若クハ衛戍副官

憲兵ノ將校下士

衛兵司令

砲兵工兵ノ監護

第二十六條 要塞司令官次官衛戍司令官諸隊長分遣隊長及ヒ各所管

ノ長官ハ各其管スル所ノ事ニ就キ犯罪アルコトヲ知りタル時ハ自ラ陸軍檢察ノ處分ヲ爲シ若クハ陸軍檢察官ニ委シテ其處分ヲ爲サシムルコトヲ得

審事其職務ヲ行フノ際現行犯アルコトヲ知りタル時ハ自ラ陸軍檢察ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪ニ因リ損害セラレタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ陸軍檢察官被告人所屬ノ長官隊長若クハ司法警察官ニ告訴スルコトヲ得

第二十八條 何人ヲ論セス軍人ノ犯罪アルコトヲ知りタル時ハ第二十七條ニ記載シタル官吏ニ告發スルコトヲ得

第二十九條 陸軍所屬ノ官吏職務ヲ行フニ因リ軍人ノ重罪輕罪ヲ犯

ス者アルコトヲ知りタル時ハ其職務ヲ行フ地ノ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長ニ告發ス可シ

第三十條 軍人ノ重罪輕罪現行犯アル時ハ何人ヲ論セス直ニ之ヲ逮捕セルコトヲ得

其犯罪人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ陸軍檢察官司法警察官憲兵卒若クハ巡查ニ交付スヘシ

第三十一條 司法警察官憲兵卒及ヒ巡查現行犯ノ軍人ヲ逮捕シ若クハ其交付ヲ受ケタル時ハ速ニ之ヲ陸軍檢察官ニ引致ス可シ

第三十二條 司法警察官軍人ニ係ル告訴告發ヲ受ケタル時ハ速ニ陸軍檢察官若クハ被告人所屬ノ長官隊長ニ交付ス可シ

第三十三條 告訴人告發人ハ願下ヲ爲シ若クハ其陳述ヲ變更センコ

トヲ請求スルコトヲ得

第三十四條 陸軍檢察官軍人ノ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタル時ハ直ニ犯所ニ臨檢シ犯罪人ヲ逮捕シ訊問ヲ爲シ其調書ヲ作ル可シ

其引致ヲ受ケタル時モ亦同シ

第三十五條 陸軍檢察官要塞司令官次官衛戍司令官諸隊長分遣隊長各所管ノ長官檢察ノ處分ヲ爲シタル時ハ調書ヲ作り證憑文書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五章 審問

第三十六條 司令官被告事件ノ具申ヲ受ケタル時ハ左ノ諸項ヲ除クノ外事件ノ難易ニ從ヒ理事ニ下付シ審事ヲシテ其審問ヲ爲サシメ

若クハ直ニ其判決ニ付ス可シ
被告人上長官以上ナル時ハ軍管司令官ハ之ヲ陸軍卿ニ具申ス可シ
營所ニ於テ被告人士官以上ナル時ハ營所司令官之ヲ軍管司令官ニ具申ス可シ

第三十七條 陸軍卿審問ノ命令ヲ下ス時ハ其事件ヲ司令官ニ交付シ司令官ハ之ヲ理事ニ下付ス可シ

第三十八條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官被告人ノ官等ニ拘ハラス直ニ其審問ノ命令ヲ下スコトヲ得

第三十九條 審事審問ヲ爲ス時ハ先ツ召喚狀ヲ發ス其被告人出廷シタル時ハ即日之ヲ訊問ス可シ

第四十條 審事ハ召喚狀ヲ受ケタル被告人其日時ニ出廷セサル時ハ

勾引狀ヲ發スルコトヲ得

第四十一條 審事ハ重罪被告人ニ對シ又ハ其他ノ被告人罪證ヲ湮滅シ若クハ逃走ノ恐アル時若クハ未遂罪脅迫罪ヲ犯シ仍ホ其目的ヲ遂クルノ恐アル時ハ直ニ勾引狀ヲ發ス可シ

第四十二條 審事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ク可キ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ陸軍檢察官若クハ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十三條 審事ハ召喚狀若クハ勾引狀ヲ受ケタル被告人疾病其他正當ノ事故アリテ令狀ニ應スル能ハサルコトヲ證明シタル時ハ其所在ニ就テ之ヲ訊問スルコトヲ得若シ被告人遠隔ノ地ニ在ル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十四條 審事ハ被告人ノ所在ヲ覺知スルコト能ハサル時ハ理事
ヲ經テ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

司令官ハ各軍管司令官營所司令官及ヒ各控訴裁判所ノ檢事長ニ人
相書ヲ送り其逮捕ヲ求ム可シ

第四十五條 審事ハ被告人禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認メタル時
ハ收禁狀ヲ發スルコトヲ得

收禁狀ヲ發シタル後若シ被告事件禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ニ非
ズ又其收禁ヲ要セサル者ト認メタル時ハ收禁狀ヲ解ク可シ

第四十六條 審事ハ事實審明ノ爲メ臨檢家宅搜索物件押收ノ處分ヲ
爲スコトヲ得其處分ヲ爲ス時ハ錄事之ニ會同シ調書ヲ作ル可シ
若シ其場所遠隔ノ地ニ在ル時ハ其他ノ審事若クハ司法警察官ニ其

處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十七條 審事ハ事實審明ノ爲メ驛遞電信鐵道ノ官署及ヒ諸會社
ニ事由ヲ通知シテ被告人ニ關係アル往復文書電報及ヒ物件ヲ收受
開披スルコトヲ得若シ其場所遠隔ノ地ニアル時ハ第四十六條第二
項ノ例ニ依ル

第四十八條 審事ハ證人及ヒ通事ヲ呼出スコトヲ得

證人皇族若クハ勅任官ナル時ハ審事其所在ニ就テ陳述ヲ聽ク可シ
證人疾病其他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スル能ハサルコトヲ證明
シタル時ハ審事其所在ニ就テ之ヲ訊問ス可シ
證人若シ遠隔ノ地ニ住スル時ハ其地ノ審事若クハ司法警察官ニ其
處分ヲ囑託スルコトヲ得

第四十九條 審事ハ被告人及ヒ證人ノ訊問ヲ爲ス時ハ錄事之ニ會同シ調書ヲ作り訊問及ヒ供述ヲ錄取シ被告人若クハ證人ニ讀示セシメ其陳述シタル所ニ違ハサルヤ否ヲ問ヒ署名捺印セシム若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ記ス可シ

被告人及ヒ證人ハ其陳述ヲ變更増減センコトヲ請求スルコトヲ得

第五十條 審事ハ犯罪ノ性質方法及ヒ結果ヲ分明ナラシムル爲メ鑑定人ヲ要スル時ハ學術又ハ職業ニ因リ鑑定スルコトヲ得可キ者ニ命シテ其鑑定ヲ爲サシム可シ

鑑定人ハ鑑定書ヲ作り其方法結果及ヒ鑑定ヲ爲シタル時間ヲ詳記シ若シ結果ヲ得サル時ハ其推測スル所ヲ記シ署名捺印ス可シ

第五十一條 審事ハ證人鑑定人通事正當ノ事故ヲ證明セスシテ其呼

出ニ應セサル時ハ二圓以上拾圓以下ノ罰金ヲ科ス可シ但審事ハ其證人ニ對シ勾引狀ヲ發スルコトヲ得

證人陳述ヲ肯セサル時ハ普通刑法第八十條ニ依リ又鑑定人鑑定ヲ肯セサル時ハ普通刑法第七十九條ニ依リ罰金ヲ科ス可シ

第五十二條 證人鑑定人通事ニ罰金ヲ科スル時ハ普通刑法第二十七條ニ從フ但罰金ヲ禁錮ニ換フル時亦審事之ヲ命ス

第五十三條 審事審問ニ於テ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ直ニ本件ト共ニ審問ス可シ

共犯ヲ覺舉シタル理事ヲ經テ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第五十四條 審事審問ヲ終リタル時ハ其報告書ヲ作り意見書ヲ添ヘ訴訟文書ト共ニ之ヲ理事ニ交付シ理事ハ意見書ヲ添ヘ之ヲ司令官

ニ上申スヘシ

第六章 判決

第五十五條 司令官ハ軍法會議ヲ開ク可キ命令書ヲ判士長ニ下シ其
謄本ヲ訴訟文書ト共ニ理事ニ下付シ理事ハ之ヲ判士長ニ交付シ會
議ノ日時ヲ判士ニ通報ス可シ

第五十六條 軍法會議ヲ開ク時ハ判士長判士録事各其席ニ著キタル
後判士長被告人ヲ出延セシム

判士長ハ先ツ被告人ノ官位勳等隊號職名氏族籍年齢ヲ問ヒ訊問
ヲ爲スノ旨ヲ告示シ録事ヲシテ審事ノ報告書ヲ朗讀セシム
其朗讀終リタルノ後判士長ハ被告事件ヲ訊問シ若シクハ判士ニ命
ジテ其訊問ヲ爲サシム

第五十七條 判士長ハ開廷ヨリ判決ニ至ルマテ令狀ヲ發スルコトヲ
得

判士長ハ法廷ニ於テ警戒ノ爲メ其處置ヲ爲スコトヲ得

法廷ニ於テ罪ヲ犯ス者アル時ハ判士長其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ
命ジテ其處分ヲ爲サシム可シ

法廷ニ於テ證人鑑定人及ヒ通事ヲ要スル時ハ第五章ノ例ニ依ル

第五十八條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人出廷ノ命ニ應セサル時
ハ之ヲ引致ス可シ但疾病若クハ正當ノ事故ニ因リ出廷スル能ハサ
ルコトヲ證明シタル時ハ判士長ハ其審判ヲ延期スルコトヲ得

第五十九條 禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人逃走シテ審判ノ日時ニ
出廷セス若クハ逃走シテ召喚狀ヲ送達スルコトヲ得サル時ハ關席

裁判ヲ爲ス可シ

第六十條 罰金ノ刑ニ該ル可キ被告人召喚狀ヲ受ケ審判ノ日時ニ出廷セサル時ハ關席裁判ヲ爲ス可シ

第六十一條 數人共犯ノ審判ヲ爲ス時ハ被告人中關席シタル者アリト雖モ出廷シタル者ニ對シ審判ヲ爲ス可シ

第六十二條 判士長ハ被告人ヲ訊問シタル後證人ヲ訊問シ若クハ判士ニ命シテ訊問セシム可シ

證人ノ陳述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ者ト認めタル時ハ判士長ハ收禁狀ヲ發シ更ニ訊問ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ訊問ヲ爲サシメ之ヲ司令長官ニ具申ス可シ

其處分ヲ爲シタル時ハ判士長ハ本件ノ審判ヲ延期スルコトヲ得

第六十三條 法庭ニ於テ更ニ檢證ノ處分ヲ要スルコトアル時ハ判士長ハ其處分ヲ爲シ若クハ判士ニ命シテ其處分ヲ爲サシム可シ
法庭ニ於テ共犯ヲ覺舉シタル時ハ判士長ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ
若シ餘罪ヲ覺舉シタル時ハ本件ト共ニ其審判ヲ爲ス可シ但判士長ハ之ヲ司令官ニ具申ス可シ

第六十四條 被告人及ヒ證人ノ訊問終リタル時ハ判士長ハ更ニ被告人ニ對シ他ニ陳述ス可キ事件ナキヤ否ヲ問ヒ訊問終リタルノ旨ヲ告ケ被告人ヲ退庭セシム可シ

第六十五條 判決書ハ判士事實ト法律トニ依リ左ノ條件ニ照シテ之ヲ作リ判士長判士録事共ニ署名捺印シ判士長之ヲ理事ニ交付ス理事ハ訴訟文書ヲ添ヘ之ヲ司令官ニ上申ス可シ

一有罪ノ判決書ニハ犯罪ノ證據及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ記ス

二無罪ノ判決書ニハ被告事件罪ト成ラサルコト及ヒ其理由ヲ記シ犯罪ノ證據備ハラサル時ハ其旨ヲ記ス

三免訴ノ制決書ニハ公訴ノ期滿免除ト爲リタルコト大赦アリタルコト法律ニ於テ其罪ヲ全免スルコト及ヒ其理由ヲ記ス

四被告人ノ官位勳等隊號職名氏名族籍年齢住所及ヒ軍法會議判決ノ年月日ヲ記ス

第六十六條 司令官ハ左ニ記列スルノ事件ハ陸軍卿ニ上申シテ命ヲ請ヒ其他ハ之ヲ專決ス但營所司令官ハ士官以上ノ犯罪ハ軍管司令官ニ上申ス可シ

死刑

上長官以上ノ重罪輕罪

士官ノ重罪

第六十七條 司令官其判決ヲ不適當ト思量スル時其專決ノ權アル事件ハ直ニ之ヲ再議セシムルコトヲ得

其專決ノ權ナキ事件ハ意見ヲ附シテ陸軍卿ニ上申ス可シ

第六十八條 陸軍卿ハ司令官ヨリ具申スル所ノ判決ヲ不適當ト思量スル時ハ直ニ司令官ニ下シテ之ヲ再議セシムルコトヲ得

陸軍卿ハ死刑並ニ上長官以上ノ重罪輕罪及ヒ士官ノ重罪ニ係ル者ハ上奏シテ命ヲ請フ可シ

第六十九條 宣告執行ノ命令アリタル時ハ判士長判士録事法廷ニ臨

ミ被告人ヲ出廷セシメテ判士長其宣告ヲ爲ス可シ
 第七十條 關席裁判ニ係ル刑ノ宣告書ハ軍法會議ノ門前ニ揭示ス可シ
 第七十一條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官ハ第六十六
 條ノ權限ニ拘ハラズ直ニ其宣告執行ノ命令ヲ下スコトヲ得
 第七十二條 軍團師團旅團ノ長若クハ合圍ノ地ノ司令官ハ輕罪ノ刑
 ノ宣告ヲ受ケタル者ニ戴罪服務ヲ命スルコトヲ得但戴罪服務ノ日
 數ハ刑期ニ算入セス
 其戴罪服務中功績アル者ハ司令官其刑ヲ減免スルコトヲ得
 第七十三條 行刑ニ關スル方法ハ陸軍卿別ニ之ヲ定ム
 第七十四條 臨戰若クハ合圍ノ地ニ於テハ其地ノ司令官ハ時宜ニ依
 リ此治罪法ノ條目ヲ省略執行セシムルコトヲ得

明治十六年八月廿七日出板御届
 同年九月刻成

定價金五錢

編輯兼出板人

東京府平民

大森太郎吉

深川區仲大工町廿七番地

賣捌所

日本橋西川岸

須原鉄二

南傳馬町

吉川半七

飯倉町五丁目

森江佐七

深川仲大工町

汲古堂

2M-6